

2. 結果

1) 島根県全体の結果

(1) 平成 27 年度 調査数 (性別 5 歳区分階級別調査対象数)

表 1. 性別・年齢階級別調査対象者数

年齢階級	男性	女性	性別不明	総計
30～34歳	641	1,037	11	1,689
35～39歳	785	1,217	7	2,009
40～44歳	936	1,232	17	2,185
45～49歳	794	1,087	16	1,897
50～54歳	1,113	1,372	15	2,500
55～59歳	1,233	1,694	33	2,960
60～64歳	1,785	2,151	28	3,964
65～69歳	2,136	2,525	40	4,701
70～74歳	1,691	2,139	22	3,852
75～79歳	1,621	2,216	37	3,874
80～84歳	1,133	1,591	20	2,744
85歳～	658	1,027	10	1,695
総計	14,526	19,288	256	34,070

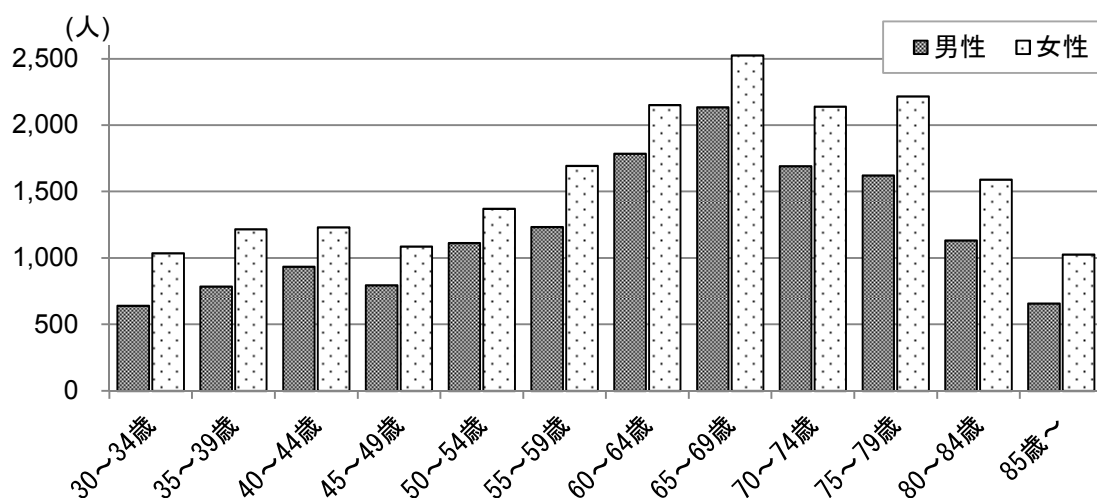


図 1. 性別・年齢階級別調査数 (※性別不明者を除く)

調査対象は、30 歳以上で男性 14,526 名、女性 19,288 名、性別不明 256 名で合計 34,070 名であった。

30 歳以上と調査対象年齢を引き上げたにも関わらず前回調査より調査対象人数が増加したのは、各歯科医療機関での院内掲示をもって前回調査に用いた同意書に代えたこと、県民の口腔内についての関心の高まりなどが関係しているのではないかと考えられる。

今回の調査も調査対象者数は全年齢階級で女性が多い。分布をみると、男女とも 40～44 歳に小さいピークがあり 65～69 歳に大きなピークを迎える。

男女とも 65～69 歳に大きなピークが見られたのは、退職後通院する時間が取れるようになったことが考えられる。また女性において 35～39 歳、40～44 歳にピークが見られたのは、妊娠期間中の口腔への関心が継続していること、市町村の乳幼児健診や学校歯科健診結果から口腔衛生への関心が高まることが理由として考えられる。

(2) 5 歳区分階級別残存歯数の状況

① 5 歳区分階級別残存歯数の状況

表 2. 5 歳区分階級別・残存歯数状況

年齢	調査者数 (人)	総残存歯 数(本)	20本以 上歯があ る者(人)	20本以上歯がある者の割合(%)				
				H13	H17	H22	H27	H22とH27と の増減(%)
30～34歳	1,689	48,300	1,686			99.7	99.8	0.1
35～39歳	2,009	56,946	2,003	97.9	94.7	99.2	99.7	0.5
40～44歳	2,185	60,444	2,145	95.6	96.8	97.3	98.2	0.9
45～49歳	1,897	50,914	1,817	88.8	92.5	95.6	95.8	0.2
50～54歳	2,500	64,554	2,326	78.2	83.7	88.3	93.0	4.7
55～59歳	2,960	71,773	2,519	67.6	73.8	79.6	85.1	5.5
60～64歳	3,964	89,340	3,023	56.4	62.5	69.9	76.3	6.4
65～69歳	4,701	96,887	3,112	43.6	52.7	61.2	66.2	5.0
70～74歳	3,852	73,381	2,166	32.7	40.9	48.6	56.2	7.6
75～79歳	3,874	63,476	1,724	22.5	29.1	36.8	44.5	7.7
80～84歳	2,744	39,319	963	14.7	19.4	27.8	35.1	7.3
85歳～	1,695	17,687	352	6.0	10.1	17.6	20.8	3.2

年齢	一人平均残存歯数(本)				
	H13	H17	H22	H27	H22とH27と の増減(本)
30～34歳			28.57	28.60	0.03
35～39歳	27.29	26.96	28.27	28.35	0.08
40～44歳	26.49	26.90	27.43	27.66	0.23
45～49歳	24.84	25.80	26.42	26.84	0.42
50～54歳	22.90	23.90	24.89	25.82	0.93
55～59歳	21.07	22.05	23.14	24.25	1.11
60～64歳	18.97	20.18	21.43	22.54	1.11
65～69歳	16.34	18.32	19.82	20.61	0.79
70～74歳	13.68	15.85	17.41	19.05	1.64
75～79歳	10.74	12.90	14.96	16.39	1.43
80～84歳	7.77	10.33	12.74	14.33	1.59
85歳～	4.19	7.00	10.30	10.43	0.13

* 調査年齢別の一人平均残存歯数の推移

	平成13年	平成17年	平成22年	平成27年
50歳	23.68	24.73	25.56	26.26
60歳	19.93	21.16	22.16	23.27
70歳	14.97	17.05	18.58	19.91
80歳	9.57	12.02	14.16	15.53

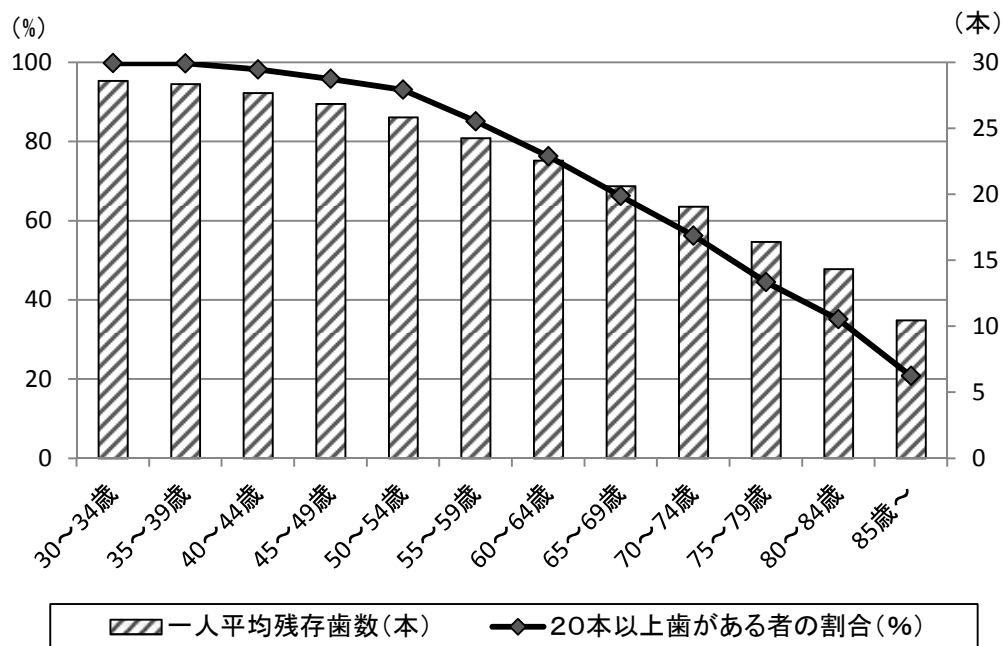


図 2. 平成 27 年度の 20 本以上歯がある者の割合と一人平均残存歯数

20 本以上歯がある者の割合は前回調査と比べ、全階級において増加している。

55～64 歳の一人平均残存歯数は過去の 4 回の調査ごとに約 1.0 本ずつ増えている。70～84 歳において、前回調査から約 1.5 本の増加と平成 17 年度調査と平成 22 年度調査の増減と比べ増加幅は小さくなっている。

平成 27 年の 20 本以上歯がある者の割合において 1 区分で、7.9%下がるのは 50～54 歳から 55～59 歳であり、55～59 歳から 60～64 歳は 8.8%減、60～64 歳から 65～69 歳は 10.1%減、65～69 歳から 70～74 歳は 10.0%減、70～74 歳から 75～79 歳は 11.7%減と、加速度を増して減少している。

平成 27 年の一人平均残存歯においても同様に、45～49 歳から 50～54 歳で 1.02 本減、50～54 歳から 55～59 歳で 1.57 本減、55～59 歳から 60～64 歳で 1.71 本減、60～64 歳から 65～69 歳で 1.93 本減と、加速度を増して減少している。

1 本の歯を失いだすところから咬合崩壊の悪循環が始まり、奥歯を守る意味、残存歯数の減少加速度化と咬合の崩壊への兆しが前述した年齢区分にあることを啓発する必要があると思われる。

② 性別 5 歳区分階級別平均残存歯数

表 3. 性別・5 歳区分階級別・平均残存歯数

年齢	男性(人)	女性(人)	残存歯数(本)		一人平均残存歯数(本)	
			男性	女性	男性	女性
30～34歳	641	1,037	18,329	29,664	28.59	28.61
35～39歳	785	1,217	22,298	34,451	28.41	28.31
40～44歳	936	1,232	25,781	34,209	27.54	27.77
45～49歳	794	1,087	20,990	29,486	26.44	27.13
50～54歳	1,113	1,372	28,311	35,841	25.44	26.12
55～59歳	1,233	1,694	29,896	41,066	24.25	24.24
60～64歳	1,785	2,151	39,880	48,842	22.34	22.71
65～69歳	2,136	2,525	42,960	53,157	20.11	21.05
70～74歳	1,691	2,139	31,667	41,300	18.73	19.31
75～79歳	1,621	2,216	27,382	35,517	16.89	16.03
80～84歳	1,133	1,591	16,595	22,414	14.65	14.09
85歳～	658	1,027	7,804	9,789	11.86	9.53
総計	14,526	19,288	311,893	415,736	21.47	21.55

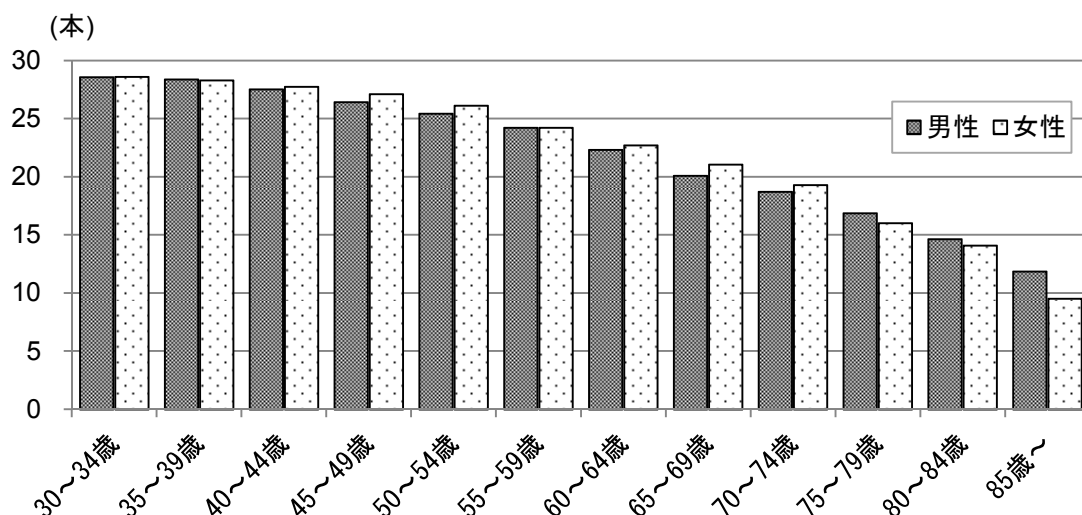


図 3. 5 歳区分階級別一人平均残存歯数

性別 5 歳区分階級別一人平均残存歯数では、男性は女性より 74 歳までは少ないが 75 歳以降では男性の方が多くなっている。男女とも調査数が多い層が 60 歳代であることを考慮すると、壮年期や高齢期における歯科受診が残存歯数増加につながっているものと思われる。

(3) 平成 13 年度、17 年度、22 年度、27 年度調査結果と島根県保健医療計画

表 4 . 各年代一人平均残存歯数の調査結果と目標の比較

	H13	H17	H22	H27	H28 (目標値)
50歳(45～54歳)	23.68	24.73	25.56	26.26	26本
60歳(55～64歳)	19.93	21.16	22.16	23.27	23本
70歳(65～74歳)	14.97	17.05	18.58	19.56	20本
80歳(75～84歳)	9.57	12.02	14.16	15.53	16本

※目標値は、島根県歯と口腔の健康づくり計画

今回の調査結果を平成 28 年度の目標値と比較すると、50 歳（45～54 歳）と 60 歳（55～64 歳）では目標値を達成している。

この平成 28 年度目標値は、平成 17 年度調査と平成 22 年度調査結果の増加本数から求めており、50 歳（45～54 歳）0.83 本、60 歳（55～64 歳）1.00 本、70 歳（65～74 歳）1.53 本、80 歳（75～84 歳）2.14 本であり、増加本数の維持を目標としている。

今年度の結果を平成 22 年度調査結果と同じように増加本数でみると、50 歳（45～54 歳）0.70 本、60 歳（55～64 歳）1.11 本、70 歳（65～74 歳）0.98 本、80 歳（75～84 歳）1.37 本となり、増加本数の幅にはやや減少がみられた。

(4) 5 歳区分階級別一人平均残存歯数と全国調査結果との比較

表 5. 島根県 (H22) と全国 (H23) の比較

年齢	島根県 H22	全国 H23	全国と島根県との差 (本)
40～44歳	27.43	27.78	-0.35
45～49歳	26.42	27.10	-0.68
50～54歳	24.89	25.86	-0.97
55～59歳	23.14	24.36	-1.22
60～64歳	21.43	22.53	-1.10
65～69歳	19.82	21.22	-1.40
70～74歳	17.41	17.32	0.09
75～79歳	14.96	15.60	-0.64
80～84歳	12.74	12.17	0.57
85歳～	10.30	8.43	1.87

※全国は、平成 23 年歯科疾患実態調査結果

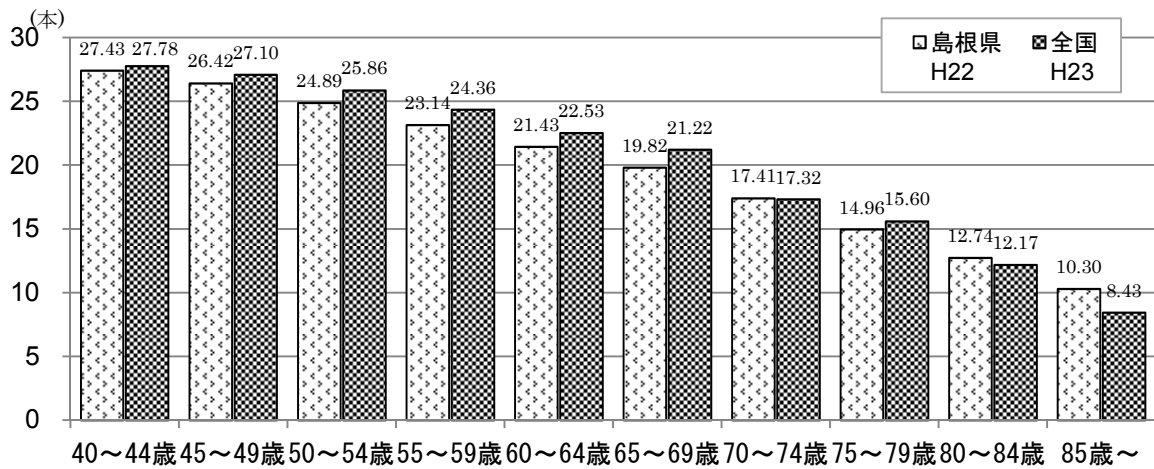


図 4. 5 歳区分階級別一人平均残存歯数と全国比較

5 歳区分階級別に島根県の平成 22 年度調査結果と、直近の全国の平成 23 年歯科疾患実態調査結果とを比較した。

平成 22 年度の結果では、40～69 歳と 75～79 歳の歯数が全国値よりも少ないことが分かった。

(5) 年齢別一人平均残存歯数

① H13, H17, H22, H27 年度における年齢別一人平均残存歯数

表 6. H13, H17, H22, H27 年度における年齢別一人平均残存歯数

年齢	H13	H17	H22	H27	年齢	H13	H17	H22	H27	年齢	H13	H17	H22	H27
30			28.7	28.7	50	23.8	25.0	26.1	26.3	70	14.4	17.2	18.5	19.7
31			28.8	28.7	51	23.5	24.1	25.2	26.3	71	14.3	16.2	17.5	19.0
32			28.5	28.7	52	22.9	24.0	24.5	26.2	72	13.5	15.4	17.5	19.1
33			28.5	28.5	53	22.4	23.3	24.7	25.4	73	13.2	15.2	17.3	19.3
34			28.3	28.4	54	22.1	23.1	24.1	25.0	74	12.6	14.8	16.3	18.2
35			28.5	28.4	55	21.4	22.7	24.3	24.9	75	11.9	13.7	16.5	17.6
36			28.6	28.3	56	21.5	22.3	24.0	24.6	76	11.3	13.3	15.1	16.6
37			28.0	28.4	57	21.0	22.1	23.1	24.6	77	10.3	12.9	14.8	16.1
38			28.2	28.2	58	20.7	21.4	22.5	23.7	78	10.0	12.4	13.9	16.0
39			27.9	28.4	59	20.9	21.6	22.2	23.5	79	9.7	11.7	14.0	15.7
40	27.0	27.5	27.8	28.1	60	20.0	21.0	22.3	23.9	80	9.5	11.5	12.8	15.4
41	26.9	26.8	27.5	27.9	61	19.4	20.5	21.5	22.9	81	8.2	10.4	13.8	14.7
42	26.2	26.9	27.3	27.3	62	19.2	20.4	21.5	22.3	82	7.0	10.2	13.0	14.6
43	26.4	26.6	27.3	27.9	63	18.6	19.9	20.5	22.0	83	6.7	9.5	11.7	13.0
44	26.1	26.5	27.1	27.2	64	18.0	19.3	21.0	21.8	84	6.4	9.1	11.8	13.3
45	25.8	26.6	27.2	27.0	65	17.8	19.4	20.3	21.2	85	6.1	8.5	11.8	12.5
46	25.3	26.1	25.9	27.1	66	16.8	18.8	20.1	21.4					
47	25.1	25.8	27.0	26.8	67	15.9	18.1	20.8	20.6					
48	24.3	25.6	26.0	27.0	68	15.7	17.7	18.7	19.9					
49	24.2	25.0	26.1	26.4	69	15.3	17.8	19.1	19.5					

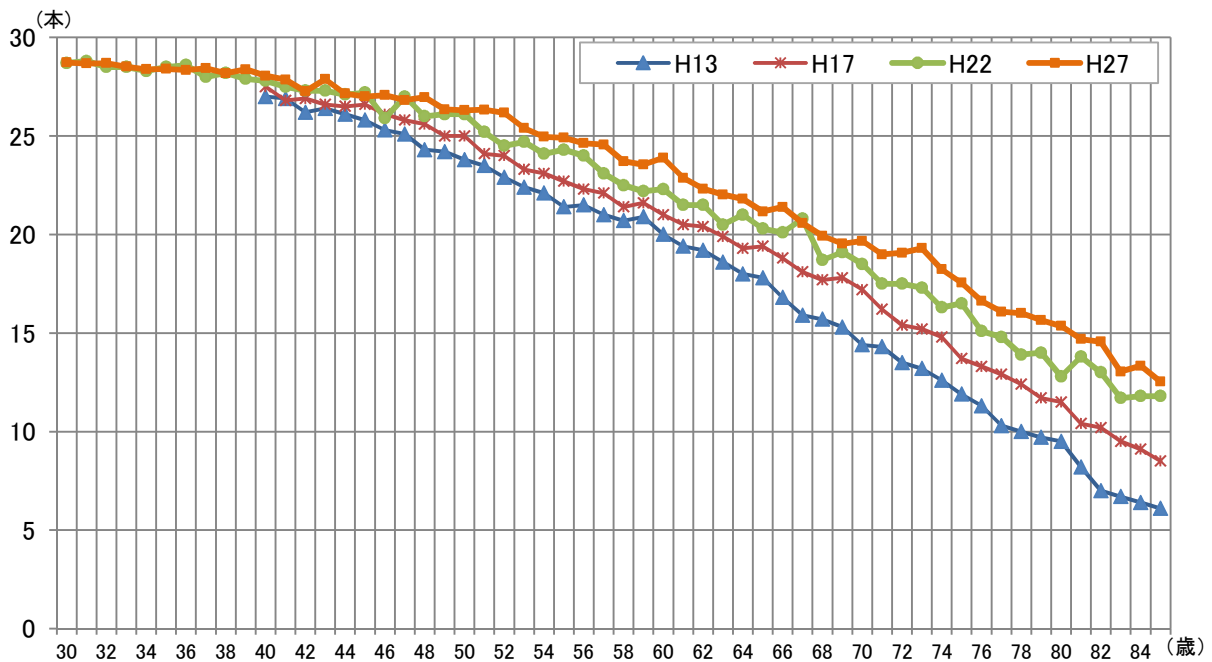


図 5. H13, H17, H22, H27 年度における年齢別一人平均残存歯数

過去4回の残存歯調査の結果から、調査を重ねるごとにグラフの傾きが緩やかとなり、全ての年齢で一人平均残存歯数が増加していた。

今回調査では45～52歳の傾きが特に緩やかであった。この年代は歯周疾患罹患ピークと重なっており、口腔保健推進や歯科受診により残存歯数が増加していると考えられる。

しかし、40歳以降歯の喪失が進み、68歳で残存歯数20本を下回るため、壮年期の取組継続が必要である。

② 2つの一人平均残存歯数

節目年齢		10歳区分階級別	
年齢	H27	年齢階級	H27
30	28.64	30歳(25～34歳)	
40	28.06	40歳(35～44歳)	27.99
50	26.31	50歳(45～54歳)	26.26
60	23.89	60歳(55～64歳)	23.27
70	19.67	70歳(65～74歳)	19.56
80	15.36	80歳(75～84歳)	15.53

同じような年齢表記であっても、節目年齢での数値と10歳区分階級別での数値は異なる。1本までの差はないが、注意して用いる必要がある。

③ 節目年齢での残存歯数分布

表 7. 節目年齢での残存歯数分布(相対度数)

残存歯数	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳
32	8.6	4.9	2.3	0.4	0.1	0.3
31	8.0	5.3	4.4	2.0	0.4	0.3
30	14.6	9.6	5.0	4.9	1.2	0.7
29	15.3	12.9	7.7	6.3	2.2	0.7
28	38.2	43.6	27.2	15.4	6.8	3.7
27	9.2	10.2	15.6	11.3	8.6	3.7
26	3.8	6.7	9.6	12.5	8.3	6.1
25	0.6	3.1	9.1	6.5	7.2	3.2
24	0.6	1.8	5.2	6.1	6.2	4.5
23	0.0	0.0	3.7	5.7	4.9	4.0
22	0.3	0.4	1.9	5.1	3.9	4.2
21	0.0	0.6	1.0	3.1	4.2	3.9
20	0.3	0.2	1.2	2.5	4.7	4.8
19	0.0	0.0	1.2	3.9	4.2	3.6
18	0.0	0.2	1.2	1.7	4.0	2.0
17	0.0	0.0	0.4	2.4	4.0	2.9
16	0.0	0.0	0.6	1.6	2.0	3.2
15	0.3	0.0	0.2	1.1	3.2	3.2
14	0.0	0.0	0.8	1.1	2.2	3.6
13	0.0	0.0	0.6	0.8	3.0	3.3
12	0.0	0.0	0.4	0.5	1.9	2.6
11	0.0	0.0	0.2	0.9	2.0	3.5
10	0.0	0.4	0.2	0.4	2.3	3.2
9	0.0	0.0	0.0	1.1	2.7	3.0
8	0.0	0.0	0.0	0.3	1.9	2.3
7	0.0	0.0	0.4	0.9	1.2	2.9
6	0.0	0.0	0.0	0.5	0.7	2.9
5	0.0	0.0	0.0	0.3	1.4	3.2
4	0.0	0.0	0.2	0.1	0.9	1.7
3	0.0	0.2	0.0	0.1	0.6	1.9
2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	2.2
1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	1.3
0	0.0	0.0	0.0	0.4	2.0	7.6
総計	100	100	100	100	100	100

50歳までは残存歯が20本以下の層はほとんど見られず、最頻値は28本である。60～70歳では最頻値が依然として28本にあるものの、ばらつきが大きくなり15本以下の層が急増している。壮年期における口腔保健の向上が必要と思われる。

(6) 一人平均残存歯数の経年比較

① 5歳区分階級別一人平均残存歯数の経年変化

表 8. 5歳区分階級別一人平均残存歯数の経年変化

年齢	H13	H17	H22	H27	H22とH27との増減(本)
30～34歳			28.57	28.60	0.03
35～39歳	27.29	26.96	28.27	28.35	0.08
40～44歳	26.49	26.90	27.43	27.66	0.23
45～49歳	24.84	25.80	26.42	26.84	0.42
50～54歳	22.90	23.90	24.89	25.82	0.93
55～59歳	21.07	22.05	23.14	24.25	1.11
60～64歳	18.97	20.18	21.43	22.54	1.11
65～69歳	16.34	18.32	19.82	20.61	0.79
70～74歳	13.68	15.85	17.41	19.05	1.64
75～79歳	10.74	12.90	14.96	16.39	1.43
80～84歳	7.77	10.33	12.74	14.33	1.59
85歳～	4.19	7.00	10.30	10.43	0.13

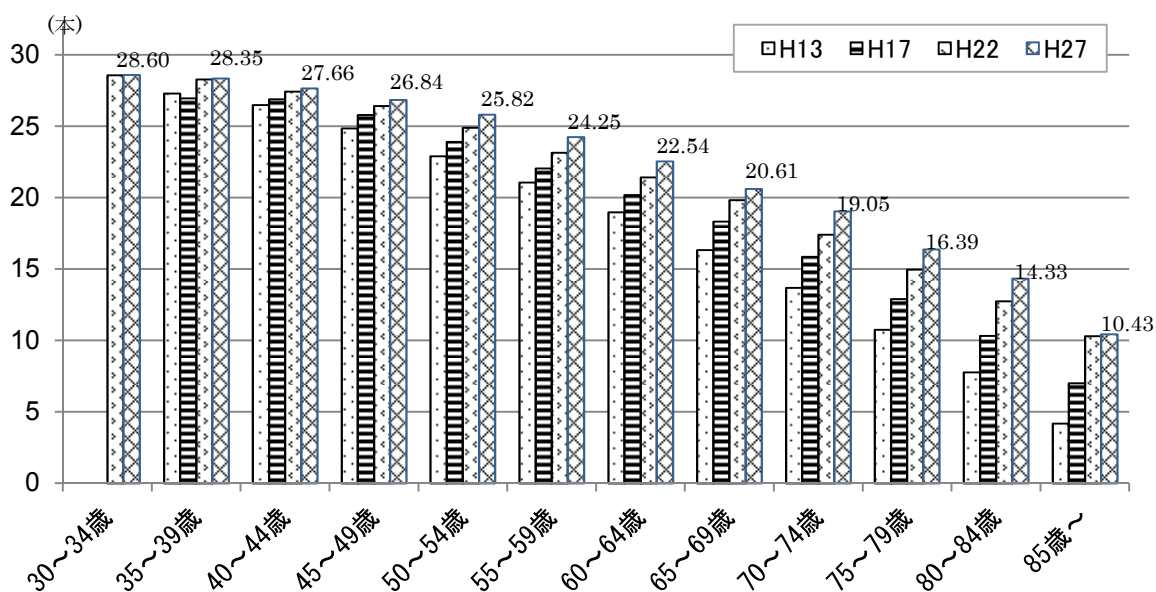


図 6. 5歳区分階級別一人平均残存歯数の経年変化

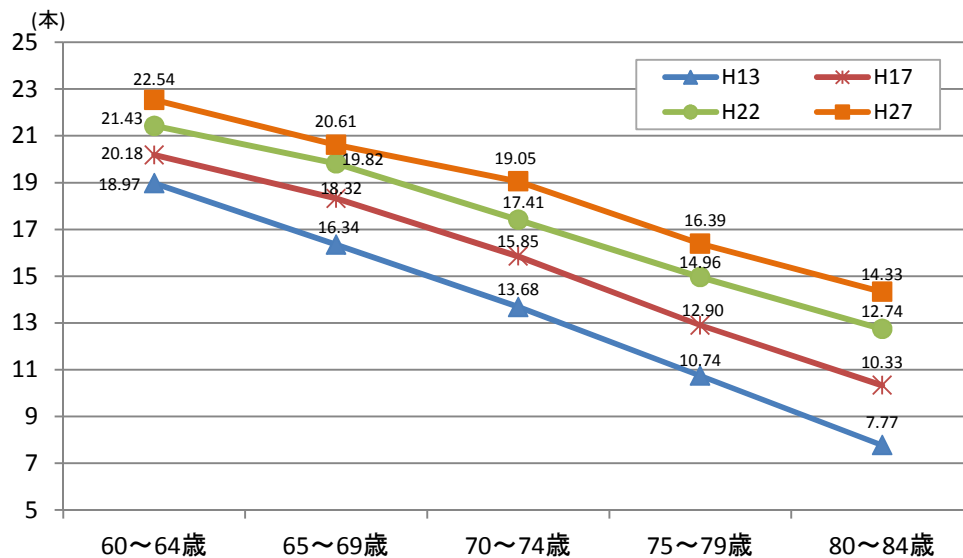


図 7. 一人平均残存歯数経年比較 (再掲)

40~44 歳までは過去の結果と大きな差はみられないが、45 歳以降、平成 22 年調査と比べ、一人平均残存歯の増減差は増加していき 50 歳代で約 1 本以上となる。

70~74 歳では前回より 1.64 本、75~79 歳では 1.43 本、80~84 歳では 1.59 本と加齢とともに、残存歯数の過去の結果との差が大きくなっている。

② 5 歳区分階級別一人平均残存歯数の経年変化予測

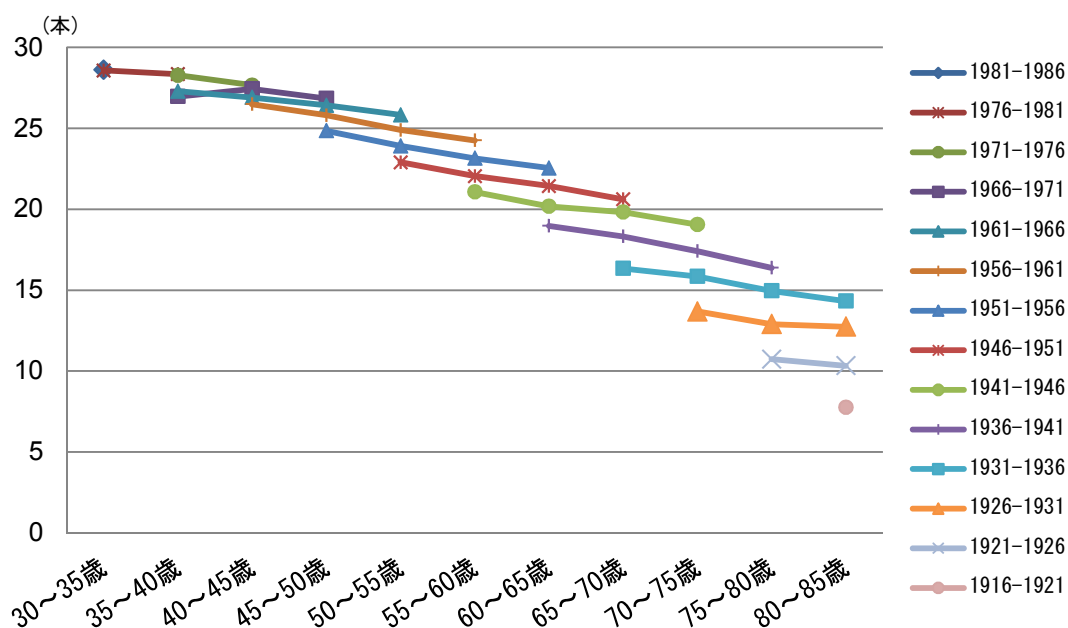


図 8. 出生コホート別年齢階級別平均残存歯数

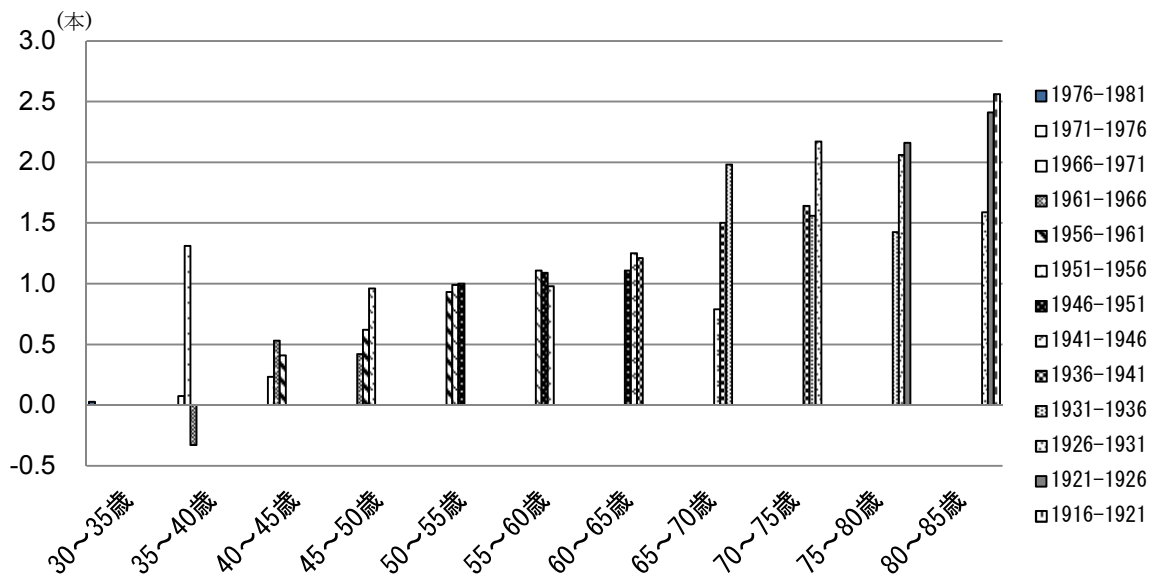


図 9. 出生コホート別年齢階級別 5 歳下の世代と残存歯数の差

出生年別に 5 歳区分階級に分け、一人平均残存歯数の経年の変化を見ると、同じ年齢時点でも出生年が早い世代ほど残存歯数が少ない（50～55 歳時点で 1961-1966 年生まれより 1946-1951 年生まれの方が残存歯数が少ない）傾向があり、年齢が若いほど、出生が最近であるほど、残存歯数の変化の差は小さくなっている。

※平成 13 年度調査は 4 年間隔であるため、1 歳程度の誤差が存在する。

③ 節目年齢別一人平均残存歯数

表 9. 節目年齢別・一人平均残存歯数(再掲)

年齢	H13	H17	H22	H27
30			28.7	28.7
35			28.5	28.4
40	27.0	27.5	27.8	28.1
45	25.8	26.6	27.2	27.0
50	23.8	25.0	26.1	26.3
55	21.4	22.7	24.3	24.9
60	20.0	21.0	22.3	23.9
65	17.8	19.4	20.3	21.2
70	14.4	17.2	18.5	19.7
75	11.9	13.7	16.5	17.6
80	9.5	11.5	12.8	15.4
85	6.1	8.5	11.8	12.5

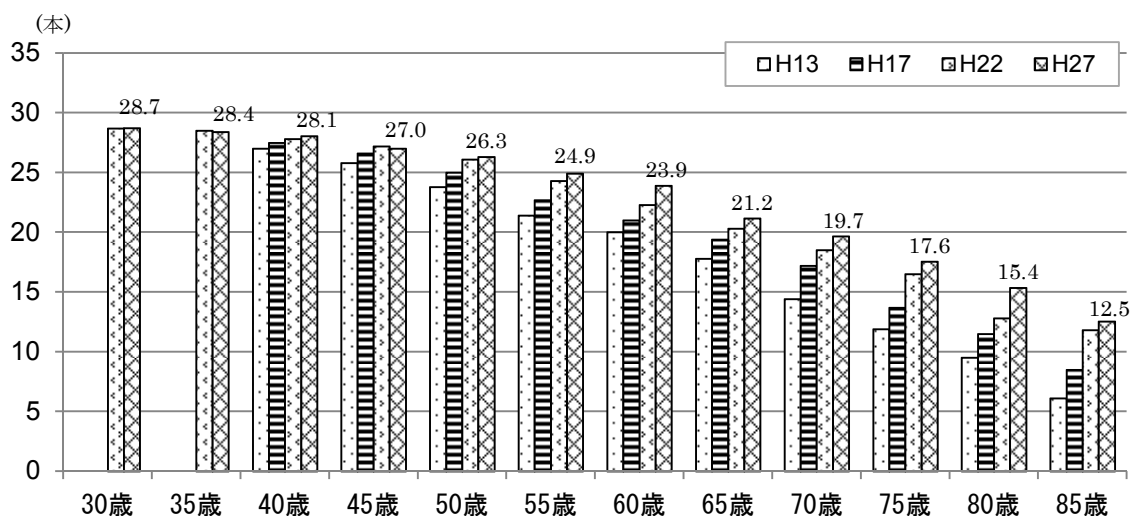


図 10. 節目年齢別一人平均残存歯数

節目年齢で見ると70歳で20本を下回る。

歯数の減少傾向を経年でみると、おおそ前回調査のひとつ若い節目年齢の数値が推移しているように見える。今の傾向が今後も続くと仮定した場合、8020が達成されるのは10年～15年後であると考えられる。

④ 節目年齢別一人平均残存歯数の減少本数経年比較

表 10. 節目年齢別一人平均残存歯数の減少本数経年比較

年齢	H13	H17	H22	H27
30-35			-0.2	-0.3
35-40			-0.7	-0.3
40-45	-1.2	-0.9	-0.6	-1.1
45-50	-2.0	-1.6	-1.1	-0.7
50-55	-2.4	-2.3	-1.8	-1.4
55-60	-1.4	-1.7	-2.0	-1.0
60-65	-2.2	-1.6	-2.0	-2.7
65-70	-3.4	-2.2	-1.8	-1.5
70-75	-2.5	-3.5	-2.1	-2.1
75-80	-2.4	-2.2	-3.7	-2.2
80-85	-3.4	-3.0	-1.0	-2.8

節目年齢で減少本数が1本を超えるのは、50歳以降である。

前回調査では75-80歳で最大減少本数は-3.7本であったが、今回の調査では80-85歳で-2.8本となり2本台へ減少。全体的に減少本数が減少傾向にある。

⑤ 平成 13 年時節目年齢における同年代の一人平均残存歯数の経年変化

表 11. 平成 13 年時・節目年齢における同年代の一人平均残存歯数の経年変化

H13時年齢	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳
H13	27.0(40歳)	23.8(50歳)	20.0(60歳)	14.4(70歳)	9.5(80歳)
H17	26.5(44歳)	23.1(54歳)	19.3(64歳)	14.8(74歳)	9.1(84歳)
H22	26.1(49歳)	22.2(59歳)	19.1(69歳)	14.0(79歳)	10.0(89歳)
H27	25.0(54歳)	21.8(64歳)	18.2(74歳)	13.3(84歳)	6.2(94歳)

例) 40 歳の列は、平成 17 年=44 歳、平成 22 年=49 歳、平成 27 年=54 歳となる。
50 歳以降同様。

⑥ 平成 13 年時節目年齢の一人平均残存歯数の増減本数

表 12. 平成 13 年時節目年齢の一人平均残存歯数の増減本数

H13時年齢	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳
H17	-0.5	-0.7	-0.7	0.4	-0.4
H22	-0.4	-0.9	-0.2	-0.8	0.9
H27	-1.1	-0.4	-0.9	-0.7	-3.8

平成 13 年度調査に 70 歳だった世代の残存歯数の減少が最も少ない。

平成 13 年度調査に 80 歳だった世代は、数値の変化の傾向が他の世代と異なる（増加し急激に減少）。

(7) 20 本以上有する者の割合・経年変化

表 13. 20 本以上有する者の割合の経年変化

年齢	H13	H17	H22	H27	H22とH27との増減(本)
30～34歳			99.7	99.8	0.1
35～39歳	97.9	94.7	99.2	99.7	0.5
40～44歳	95.6	96.8	97.3	98.2	0.9
45～49歳	88.8	92.5	95.6	95.8	0.2
50～54歳	78.2	83.7	88.3	93.0	4.7
55～59歳	67.6	73.8	79.6	85.1	5.5
60～64歳	56.4	62.5	69.9	76.3	6.4
65～69歳	43.6	52.7	61.2	66.2	5.0
70～74歳	32.7	40.9	48.6	56.2	7.6
75～79歳	22.5	29.1	36.8	44.5	7.7
80～84歳	14.7	19.4	27.8	35.1	7.3
85歳～	6.0	10.1	17.6	20.8	3.2

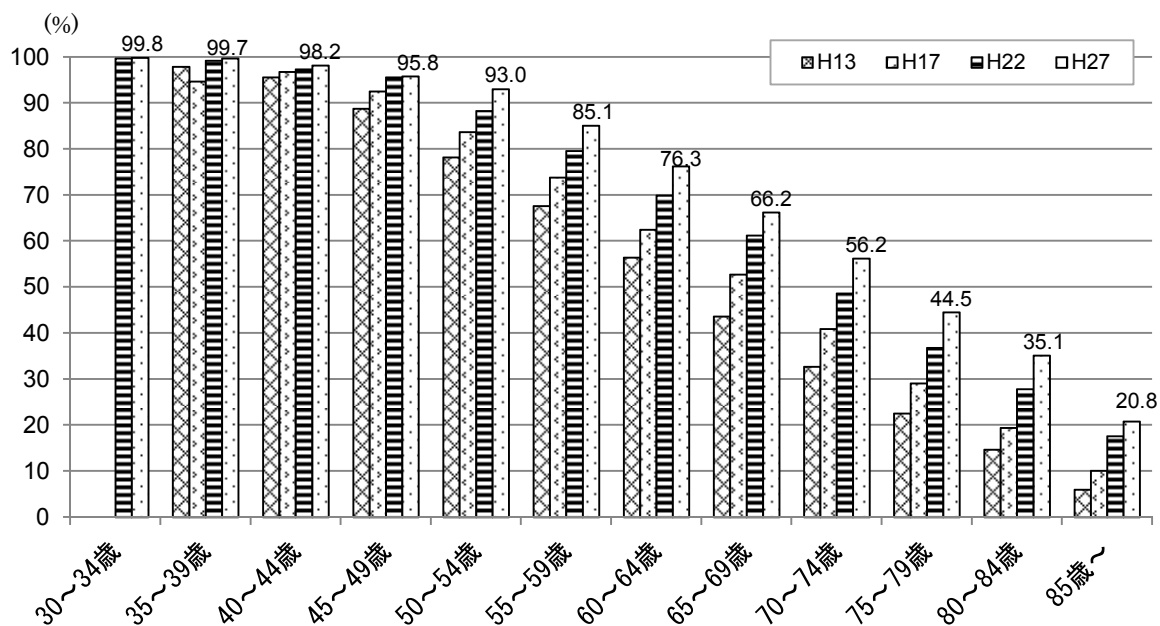


図 11. 5 歳区分階級別 20 本以上有する者の割合

経年変化をみると、20 本以上有する者の割合は全ての年代層において増加しているが、特に 70～84 歳での割合の増加が大きい。

① 20 本以上有する者の割合の全国との比較

表 14. 20 本以上有する者の割合・島根県 (H22) と全国 (H23) 比較

年齢	島根県H22	全国H23	差
30～34歳	99.7	100.0	-0.3
35～39歳	99.2	100.0	-0.8
40～44歳	97.3	98.7	-1.4
45～49歳	95.6	97.1	-1.5
50～54歳	88.3	93.0	-4.7
55～59歳	79.6	85.7	-6.1
60～64歳	69.9	78.4	-8.5
65～69歳	61.2	69.6	-8.4
70～74歳	48.6	52.3	-3.7
75～79歳	36.8	47.6	-10.8
80～84歳	27.8	28.9	-1.1
85歳～	17.6	17.0	0.6

* 全国は、平成 23 年歯科疾患実態調査

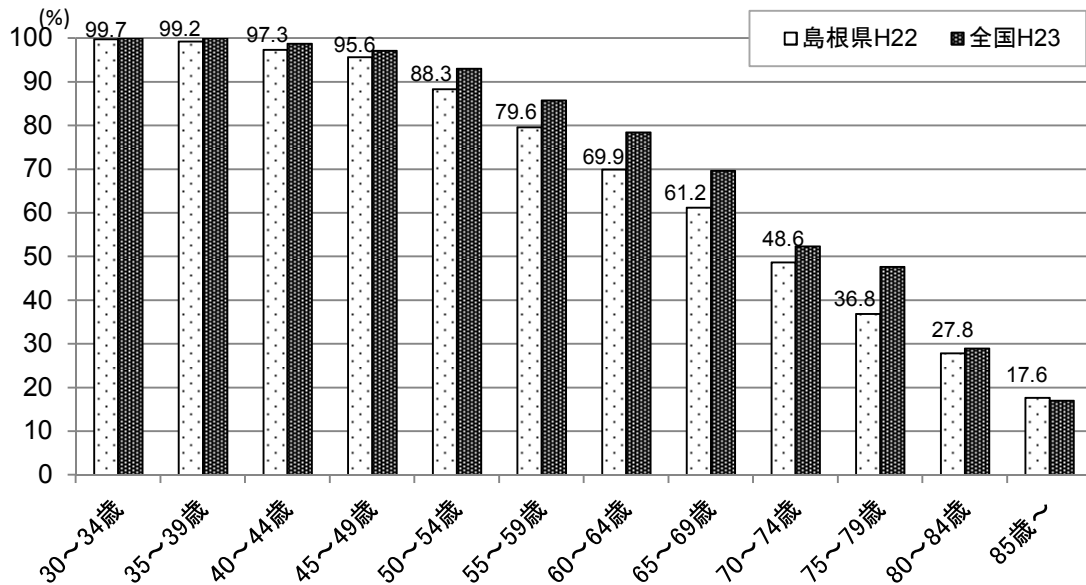


図 12. 20 本以上有する者の割合・島根県 (H22) と全国 (H23) 比較

85 歳以上を除き、すべての年代層で全国平均と比べ島根県の方が少なく、特に 50 歳から 79 歳までの年代層のうち、75～79 歳ではその差が大きい。

② 8020 達成者の全国との比較と目標値

表 15. 8020 達成者の全国比較と目標値

年齢	島根県	島根県	島根県	島根県	島根県 目標値	参考値
	H13	H17	H22	H27		全国H23
75～84歳	19.4	25.8	33.4	40.6	56.0	38.3

※島根県目標値：健康長寿しまね推進計画（第二次）

※参考値全国：平成 23 年歯科疾患実態調査結果

*一人平均残存歯数（平成 27 年度調査および平成 23 年歯科疾患実態調査）

年齢	島根県 H27	全国 H23
75～84歳	15.53	14.24

島根県における 8020 達成者の経年変化をみると増加傾向を示しているが、平成 27 年度調査は、島根県目標値に達していない。

(8) ポケット測定値 4 mm以上を有する者

① 性別 5 歳区分階級別ポケット測定値 4 mm以上の人数と割合

表 16. 性別 5 歳区分階級別ポケット測定値 4 mm以上の人数と割合

年齢	男性			女性			性別不明		
	総数	4mm以上	割合	総数	4mm以上	割合	総数	4mm以上	割合
30～34歳	634	328	51.7	951	391	41.1	11	3	27.3
35～39歳	779	473	60.7	1156	522	45.2	7	3	42.9
40～44歳	929	578	62.2	1206	617	51.2	17	7	41.2
45～49歳	789	533	67.6	1083	628	58.0	16	11	68.8
50～54歳	1099	782	71.2	1366	839	61.4	15	11	73.3
55～59歳	1214	822	67.7	1683	1118	66.4	33	22	66.7
60～64歳	1732	1250	72.2	2116	1449	68.5	27	17	63.0
65～69歳	2032	1486	73.1	2464	1666	67.6	40	28	70.0
70～74歳	1589	1179	74.2	2062	1435	69.6	21	16	76.2
75～79歳	1458	1068	73.3	2005	1369	68.3	34	23	67.6
80～84歳	971	725	74.7	1345	934	69.4	17	12	70.6
85歳～	481	355	73.8	622	425	68.3	9	7	77.8
総計	13707	9579	69.9	18059	11393	63.1	247	160	64.8

* 歯肉コード無し及びポケット測定値不明を除く。

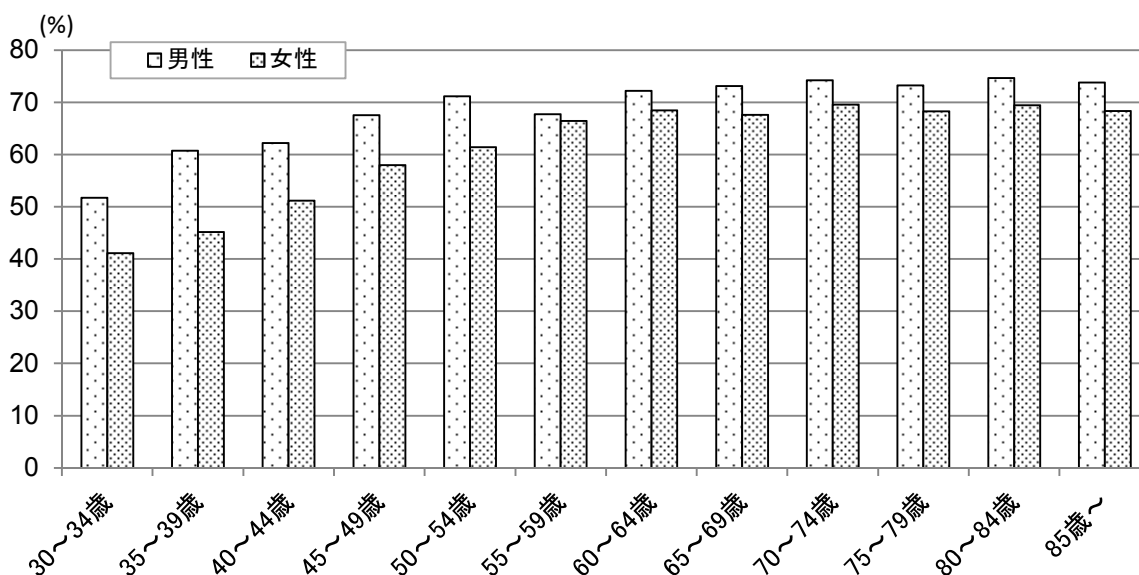


図 13. 性別 5 歳区分階級別ポケット測定値 4 mm以上の人数と割合 (性別不明者を除く)

ポケット測定値が 4 mm以上を有する者の割合は、全ての年代において、男性の方が女性よりも大きい。男性においては 35～39 歳から、女性は 45～49 歳の年代から急に増加する傾向にある。重度歯周疾患に罹患しつつも、積極的に歯牙を保存する歯科治療の影響もある。

男性は 30～34 歳で既に 50%以上が該当している。また、男性は 50～54 歳で 70%を超えているが、女性は 40～44 歳で 50%以上となるも、85 歳以上のところでも 70%を超えるまでには至らなかった。

② H17, H22, H27 年 5 歳区分階級別ポケット測定値 4 mm以上を有する者の割合
 表 17. H17, H22, H27 年 5 歳区分階級別ポケット測定値 4 mm以上を有する者の割合

	H17			H22			H27		
	総数	4mm以上	割合	総数	4mm以上	割合	総数	4mm以上	割合
40～44歳	2,563	1,151	44.9	1,536	835	54.4	2,152	1,202	55.9
45～49歳	2,961	1,550	52.3	1,656	947	57.2	1,888	1,172	62.1
50～54歳	3,826	2,260	59.1	2,120	1,345	63.4	2,480	1,632	65.8
55～59歳	4,584	2,826	61.6	2,587	1,705	65.9	2,930	1,962	67.0

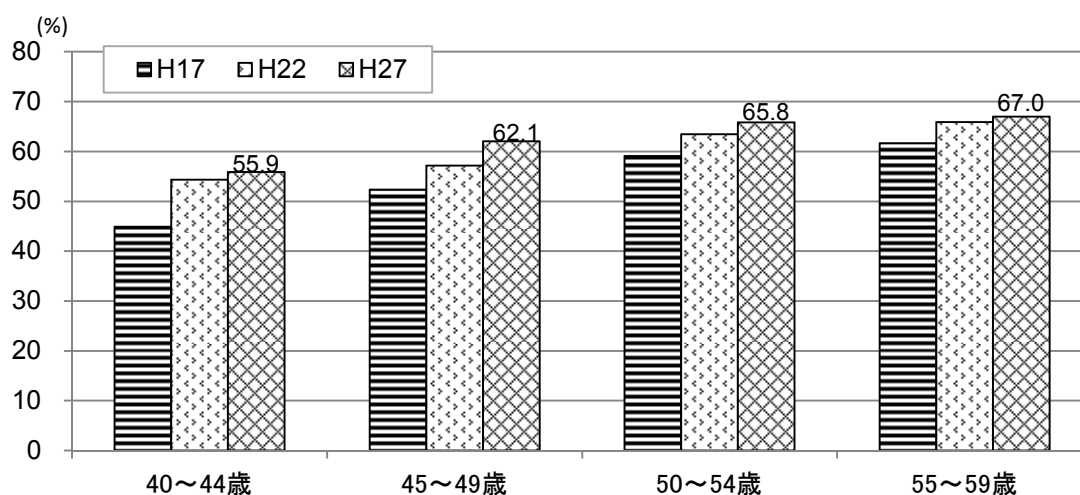


図 14. H17, H22, H27 年 5 歳区分階級別ポケット測定値 4 mm以上を有する者の割合

壮年期において、平成 17 年度調査、平成 22 年度調査時と比較してポケット測定値 4 mm 以上を有する者の割合は各年代とも増加する傾向にある。